

天草市

教育と研究の森

鹿児島大学の森



文部科学省認定(2014~2023年度)
教育関係共同利用拠点
 大学の授業でぜひご利用ください



硫黄島

馬毛島

種子島

西之表市

鹿児島大学農学部附属 演習林 概要



みどり えん 緑は縁の下の力持ち

豊かな森は私たちにいろいろな恵みをもたらします。
あなたと森のあいだには、どんな関係がありますか？

▲ 鷓岳

CONTENTS

- P.2-3 森の働き
- P.4-5 歴史
- P.6-7 施設・スタッフ
- P.8-9 高隈演習林の自然
- P.10-11 業務①(教育・研究)
- P.12-13 業務②(社会貢献)
- P.14-15 業務③(森林管理)

管理棟の給水塔から、最高峰ビシャゴ岳(885m)を望む。左端が115林班、右端が109林班、手前は実習苗畑(2022.01)

森の働き

①生物の多様性を保つ



(2019.11・119林班009小班)
生物多様性保全機能

たくさんの種類の動植物が住んでいて、生物の多様性を保っています。

②CO₂を固定する



地球環境保全機能

地球温暖化の主要な原因であると考えられている二酸化炭素を吸収・貯蔵しています。

③土砂の流失を抑え山地災害を防ぐ



土砂災害防止機能/土壌保全機能

樹木や落ち葉、下草などが地面を覆い、雨粒で表土が流れることを抑えます。また、根系により土を保持します。

④水を蓄える



水源かん養機能

森の土は雨水をしみこませてゆっくりと川に流し、洪水や渇水を緩和します。その時にミネラルが加えられ、おいしい水になります。

⑤快適な環境を提供する



快適環境形成機能

気温の変化を和らげたり、騒音を防いだりするなど、人にとって心地の良い環境をつくりだします。

⑥安らぎや遊びの場所を提供する



(2021.07串良川源流)
保健・レクリエーション機能

スポーツや行楽、休息やリフレッシュの場として利用されます。

⑦森林文化の伝承



(2019.10山の神)
文化機能

森とともに暮らすことで育まれた文化や伝統があります。

⑧森林バイオマスを提供する



(2022.02長尾土場)
物質生産機能

木材やきのこ、山菜などの生産の場になっています。

1世紀



大正3年頃まで使用していた演習林宿舍と学生たち(時期不明・セツ谷)

林学科生徒演習ノ用ニトテ
又林学上ノ實驗研究ヲ
行フラ第一義トナスト思ヒ
可成合理的林業ヲ行ヒ
我高等農林学校資金ニ屬スル
森林原野トシテ
收利ヲ永遠ニ保シ且伸進ス

(大正四年調整 第一次施業案より)



草地が目立つ演習林中央部の稜線(1964年以前・115-116林班境界か)



実習風景、あるいは港から演習林までの徒歩移動の途中(時期不明(県道71号線の中尾橋か))



地拵作業、地域住民の雇用場としても重要な存在だった(1960-70年代)



架線集材と、トラックによる丸太の運材(1973.03)



昭和55年まで使用していた管理棟(1973.03・現在は多目的広場)



長柄鎌による下刈作業と桜島の灰(1982年・114林班リ小班)



懐かしの車両アルバム(1991年?)



林内車を使った間伐実習(2000年度の農学部概要より)



森林環境教育による利用が盛んになる(2005.05・キャンプ場)



史上最大級の台風災害で被害多発。県道71号も寸断(2016.09・105林班003小班)



左パノラマ写真と同地点から(2012.03)

演習林の歴史

1909年12月、鹿児島大学の前身である国立鹿児島高等農林学校に、林学教育・研究の場として、高隈演習林と佐多演習林が設置されました。1949年の学制改革を経て、鹿児島大学農学部の附属施設となりました。設立当初は大部分が痩悪な広葉樹林や草地でしたが、国内の木材需要に応えるために人工林の造成が始まりました。木材の価格が高かった時代には、演習林での木材生産は大学の収入に大きく貢献しており、歴史的には大学の資産としての役割も果たしてきました。

この20～30年の間には、時代の流れとともに、林学教育の縮小、森林の公益的機能の重視、大規模生産―造林事業の縮小などが行われました。一方で、演習林の利用拡大や大学の社会貢献の重要性が問われるようになり、いくつかの新しい試みを行うようになってきています。

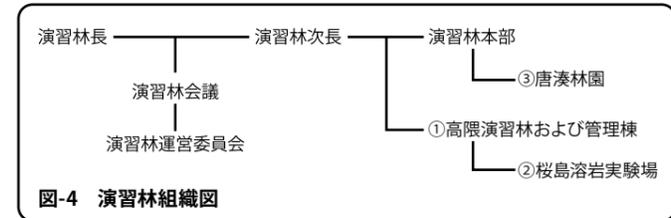
表-1 年表

1871 (明治4年)	島津藩有林だった森が国有林になる	1954.3 (昭和29年)	唐湊林園を設置
1908.3 (明治41年)	国立鹿児島高等農林学校開設(全国で2番目)	1958.4 (昭和33年)	垂水貯木場を設置
1909.12 (明治42年)	高隈演習林、佐多農林実習場を設置	1959.4 (昭和34年)	学内苗畑を実験苗畑として演習林が管理
1914.1 (大正3年)	桜島の大爆発。桜島と大隅半島が陸続きになる	1980.3 (昭和55年)	高隈演習林管理棟および宿泊施設が、現在の場所に完成・移転
1931.9 (昭和6年)	桜島大爆発でできた溶岩台地上に、桜島溶岩実験場を設置	1991.7 (平成3年)	垂水貯木場を垂水育苗実験地と改称
1938 (昭和13年)	桜島の大爆発	1999.4 (平成11年)	垂水育苗実験地を垂水実験地と改称
1946 (昭和21年)	桜島の大爆発	2004.4 (平成16年)	国立大学が法人化・演習林は国有林から民有林に
1949.5 (昭和24年)	学制改革	2010.3 (平成22年)	高隈演習林開山100年記念式典
		2014.7 (平成26年)	共同利用拠点に認定される

演習林とは？

演習林は、巨大な**教室**であり、また**実験室**であるといえます。演習林の土地は鹿児島大学の**93%**を占めていて、100年の歴史に支えられた有形無形の財産が蓄積されています。その一方、環境問題や、自然と調和した持続可能な森林資源の維持管理が、私たちに等しく課せられた課題となっています。このような課題に対応した教育・研究がいま大学に求められています。それを実践的に展開するフィールドがここ演習林です。

本学は、演習林をもつ全国27大学の中で**5番目に広い**森林を有し、高隈演習林をはじめとして、次の3ヶ所のフィールドを管理しています。



①高隈演習林および管理棟



伐期をむかえたスギの人工林が広がる (2005.08・14林班の観測タワーから4林班方面)

②桜島溶岩実験場



07年の松枯れを経たクロマツ林 (2019.02・鳥島展望台から鹿児島市内方面)

③唐湊林園



多目的に利用されている都市近郊林 (2021.01)

演習林の理念

演習林は、3000ヘクタールの広大な土地と豊かな自然環境に恵まれ、先人達の100年の営みに支えられた貴重な森林資源を最大限に活用し、教育・研究と地域社会の持続的な発展に貢献します。

施設

高隈演習林の南部に、事務室や宿泊施設を含む管理棟があります。建物は、1980年(昭和55年)に現在の場所に移築しました。2007~2009年度の改装時に、**演習林産のスギ・ヒノキ**を内装材に用い、宿泊室の壁板には**全国各地の銘木**を使い、教材としての役割を果たしています。

主な設備としては、森林GISや気象観測機器(リアルタイムで情報提供中)などの研究機器のほか、森林施業を行うための大型重機を所有しています。なお、飲料水は、約4km先の水源地から供給される天然湧水です。これを使用した芋焼酎「きばいやんせ」と「春秋謳歌」は大学オリジナル商品として県内で限定販売されています。



演習林産のスギ材を使った内装と、薪ストーブ (2011.06・食堂)



壁板に木曽ヒノキ、南部アカマツ、秋田スギ、青森ヒバ、琉球マツを使用

表-3 主な施設

高隈演習林管理棟	◆事務室(コピー機、FAX、AED自動体外式除動機等)
	◆会議室【10名程度】
	◆講義室【40名収容】・プロジェクター、音響設備
	◆食堂【50名収容】 ・バイオマスエネルギーの教材として薪ストーブ
	◆宿泊室【収容人数:50名】 ・宿舎内無線LANあり。 (パスワード taka1 taka2) ・内装には全国各地の銘木を教材として使用
	◇学生宿泊室 ・定員6名×5室、8名×1室、10名×1室
	◇教員宿泊室 ・定員1名×和室1室、洋室1室
	◆展示室 ・パネル展示、木材の標本展示、屋久杉の円板標本など
	◆浴室 ・男性用1、女性用1、洗濯機、乾燥機
	◆トイレ ・男性用2カ所、女性用2カ所

2021.12現在

表-4 主な設備

森林GIS、航空レーザー計測成果	1	バックホウ	4
気象観測機器	1	①住友S260-F2PWO付(グラブ) 0.4	
林業労働災害VRシミュレーター	1	②コマPC138US-85(スイングヤーダ仕様)	
ドローン	1	③システム ザカスヘッド 0.4	
ハイゼット 4WD	1	④コベルCOSMOS-SR 0.25(南豊ウインチPWO付)	
ハイエース 4WD	1	④コベルCOSMOS-SR 0.25(松本フィンチHW20ACB付)	
ブルド 4WD	1	ブルドーザー(CAT三菱 D3G)	1
ダンプトラック(三菱ふそう 2t) 4WD	1	フォワード(イワフジU2)、林内作業車	3
ダンプトラック(日野 4t)	1	その他	
マイクロバス(日産シリア/SX29人乗)	1	・チェンソー、刈払機、発電機、 乗用芝刈機、タイヤショベル(コベルコLK50Z-6)、 トラック(日産 6.5t 2.9tトラック)	

2021.12現在

図-1 利用者総数(3年間平均)

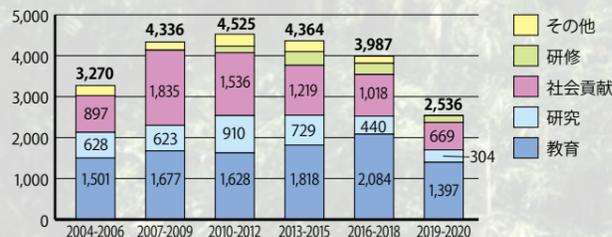


図-2 利用者内訳(2015-2019年の平均) 事業別

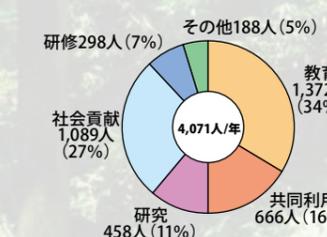
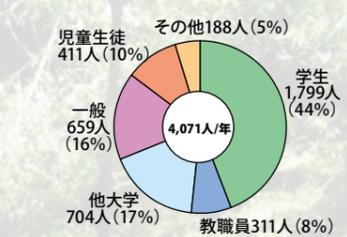


図-3 利用者内訳(2015-2019年の平均) 対象者別



成林したスギの人工林。76年生 (2011.06・107林班082小班)

立地



高隈演習林は、面積3,068.11ha。大隅半島の北部にあり、鹿児島市の対岸、桜島の東方に位置します。錦江湾(始良カルデラの外壁部分)に沿って、南の高峯(722m)から中央部のピシャゴ岳(885m)を経て、南北に尾根が伸びています。この稜線を分水嶺として、東側は串良川の源流域を形成する丘陵地形となり、演習林から流れた水は高隈ダム(大隅湖)に蓄えられ、笠野原台地をうるおしたのちに志布志湾に向かいます。西側および北側は、錦江湾に向かう急傾斜地となっています。南側には、ブナの南限地として知られる高隈山森林生物遺産資源保存林(国有林)があります。演習林の標高は70m~885mで、500m以上の場所が半分を占めています。管理棟(事務所)は演習林の南端、標高542mの位置にあります。

気象



年平均気温は14.5℃、年間降水量は3,400mm程度で、霧が多く湿度が高いことが特徴です。台風時の北東~南東の風は強烈で、集中豪雨に見舞われることもしばしばあり、林地の崩壊や樹木の風倒・風折の被害を受けることも多くあります。雪はほとんど降らず、数cmの積雪が年に1~2回あるかどうかといった程度です。



表-5 気象極値

観測項目	極値	起日
最高気温	34.5℃	1969.9.24
最低気温	-8.1℃	1933.1.28
降水量(1時間)	104.0mm	2006.7.5
降水量(日)	494.5mm	2005.9.6
降水量(月)	1543.0mm	1993/7月
降水量(年)	5484.5mm	1993年
最大瞬間風速	37.0m/s	1997.9.16
最大瞬間風向	風向:SW	

(1913~2020年)

地質・土壌



地質は、中生代白亜紀の付加体堆積物(泥岩が優勢な四万十層群)が多く分布します。南東の一角には高隈連山から続く新生代の花崗岩があり、南部に第四紀の入戸火砕流(≒シラス)、北部に百引火砕流が堆積し、溶結凝灰岩が分布することが特徴です。そして地表面近くには、比較的新しい、桜島からの噴出物を観察することができます。土壌としては、普通または淡色アロフェン質黒ボク土が優勢です。主に火山灰を母材とし、保水性や透水性が良く、耕起が容易であることが特徴です。



植物・動物



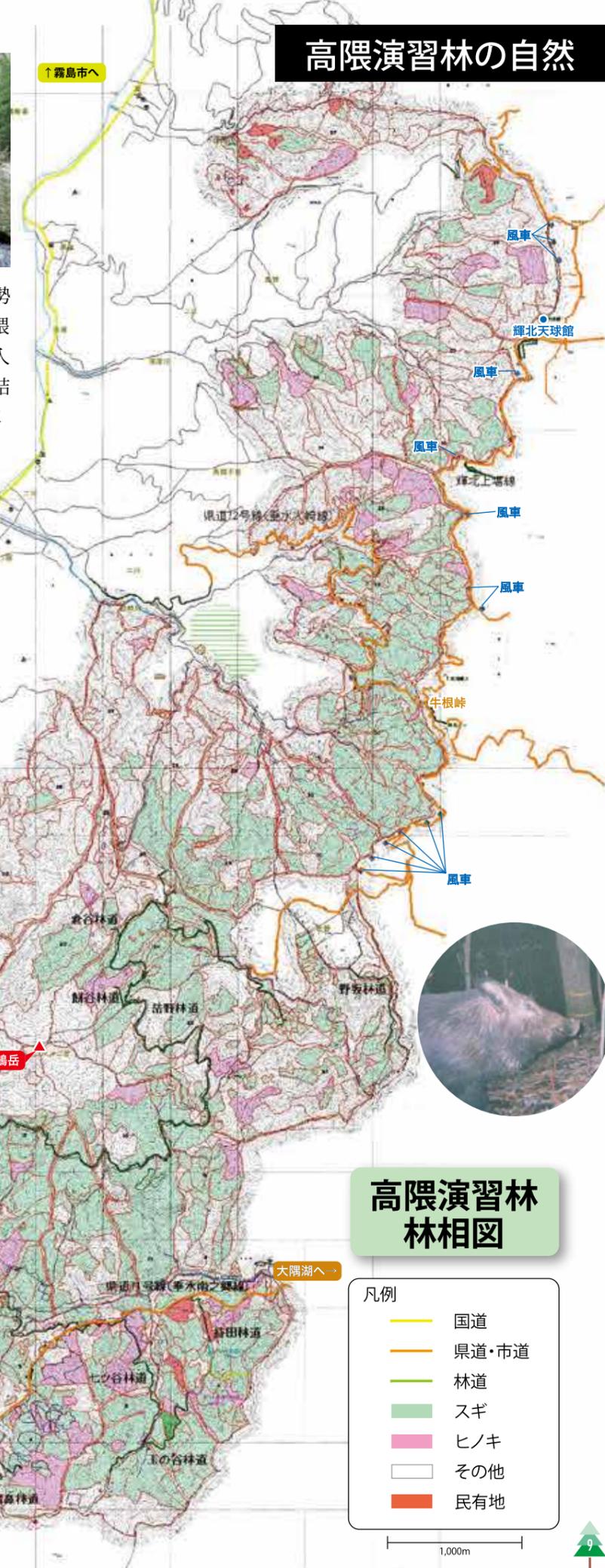
暖帯南部に属し、照葉樹の二次林が大半を占めています。森林のうち人工林は36%あり、大半がスギで、戦前の植林も比較的多い(24%)ことが特徴です。木本は301種類、草本は653種類が記録されています(昭和43年 迫報告による)。ほぼ原生林とみなされる学術参考林(七ツ谷山系)などでは、イタジイ・イスノキ・ウラジロガシ・タブノキ・マテバシイなどの背の高い常緑広葉樹、中層にはサザンカ・アオガシ・シキミが多く、低層にはアオキ・サツマイナモリ・モミジコウモリなどが姿をあらわします。桜島のすぐ東側に位置するため、標高の高い場所などでは、かつて草地だったところも多くあります。

また、哺乳類は少なくとも15種類、鳥類は98種類が確認されています。



表-6 路網密度

	延長(m)	密度(m/ha)	
林道	35,633	11.6	(2021年度)
公道	13,970	4.6	(2021年度)
作業道	16,550	5.4	(1995年度)
合計	66,153	21.6	



高隈演習林林相図

- 凡例
- 国道
 - 県道・市道
 - 林道
 - スギ
 - ヒノキ
 - その他
 - 民有地

森林が教科書



教育

高限演習林は、四季折々の森林を教科書として、五感をフル活用し、具体的で実践的な活動をするためのフィールドです。ここでは、1年を通じて多くの学生が演習林に**泊まり込み、集団生活を体験しながら**野外で実習を行います。机上の知識と、実際の体験とをつなぎあわせることで、深い学びに導きます。

森林科学コースの学生は、およそ1週間単位の実習を卒業までに5~8回受講します。また、全国的にも珍しい、林業を専門的に学ぶ社会人を対象とした大学院生のフィールド演習も実施しています。

教育関係共同利用拠点 since2014

1979年に始まった岩手大学との交換実習の長い歴史があり、2011年からは全国の演習林が協力して行う単位交換の「公開森林実習」を2科目開講しました。これらの実績を背景に2014年から文部科学省の「教育関係共同利用拠点」に認定され、文理系の分野を問わず、多くの大学などの教育フィールドとして利用者を受け入れてきました。2018年に第二期として再認定を受け、林業教育分野、環境教育分野、防災教育分野、動植物教育分野、さらには地域コミュニティの分野で教育をサポートしています。長崎大学教育学部、琉球大学農学部、志学館大学など**多くの大学が継続的に来演**するなど、全国各地の高等教育機関の演習林として活動の幅を広げています。

図-7 利用者数(教育)(3年間平均)



研究

自然界の法則を調べ、人と自然のつきあい方を考える研究はとても重要ですが、すぐに結果が出るものばかりではありません。演習林では、人の一生では観察しきれないほど長い**森の時間**につきあい続けます。

演習林で得られた研究成果は論文などとしてまとめられています。その内容の一部や、成果物のタイトル一覧は、「演習林研究報告」として毎年公表しています。

図-8 利用者数(研究)(3年間平均)

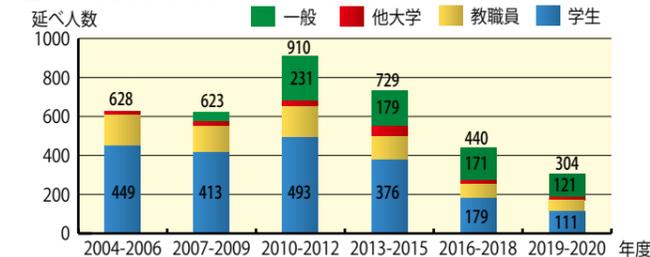


表-7 実習科目一覧(2019年度)

時期	日数	実習名	対象コース	学年
4~5月	4	自然学校へ行こう	共通教育	1~4
5月	2	森林科学基礎特論	森林科学コース	M1
7月	3	森林資源科学特別講義	森林科学コース	M1
8月	2	森林基礎実習II	森林科学(必修)	3
"	3	森林利用学実習	森林科学(必修)	3
"	3	自然体験活動入門講座	共通教育	1~4
9月	1	砂防学実習	森林科学(必修)	3
"	2	森林キャリアデザイン	森林科学(選択)	3
"	4	暖帯林実習	森林科学(必修)	2
9月・12月	8	森・ひと・体験	共通教育	1~4
10月~1月	5	フォレスター総合実習	森林科学(選択)	3
2月	4	森林基礎実習I	森林科学(必修)	2
"	5	森林計測学実習	森林科学(必修)	2
合計	46日	※年明けからコロナの影響あり		

表-8 共同利用実績一覧(2019年度)

時期	日数	大学名	学年
4月	2	宮崎大学 農学部	3,4
6月	5	長崎大学 教育学部	3
"	3	北九州市立大学 地域創生学群	2~4
7月	2	志学館大学	1~3
"	1	中国・華中農業大学	3,4
"	2	筑波大学 生物資源学類	4
8月	5	長崎大学 教育学部	3
9月	3	岩手大学 農学部	2
"	7	琉球大学 農学部	3
9月・10月	4	宮崎大学 農学部	3,4,M
11月~1月	15	西日本工業大学 工学部	4,M
11月	3	長崎大学 教育学部	3
12月	2	中国・雲南農業大学	3,4
合計	54日	※年明けからコロナの影響あり	

現場での体験を通じてしか得られない学びがあります(2013.08・108林班066小班)

学生実習の一例

ヤマを測る。

【計測学実習など】現場でさまざまなものを観察し、計測し、分類し、分析を加えるなどして、森林の構造や仕組みを解明する基礎的な手法を学びます。



ヤマで汗をかく。

【基礎実習など】現場でしか体験できないことがあります。林業作業や屋外活動を通して、機械・道具・身体の使い方などを、多様なフィールドで体験します。



ヤマで磨く。

【フォレスター総合実習など】さまざまな学習内容を統合し、総合的な観点から森林管理を行えるようになることや、森林を通じた人間活動(生活・文化・人間関係・非日常性)から学ぶことにも注目します。



研究の一例

造林のコストダウン

植栽本数や下刈りの回数を変え、再造林の実行に欠かせない省コスト林業への取り組み。



動物と森林の生態

野生動物と林業との関係性や、動物・植物の基本的な生育状況を観察します。



継続的な林況調査

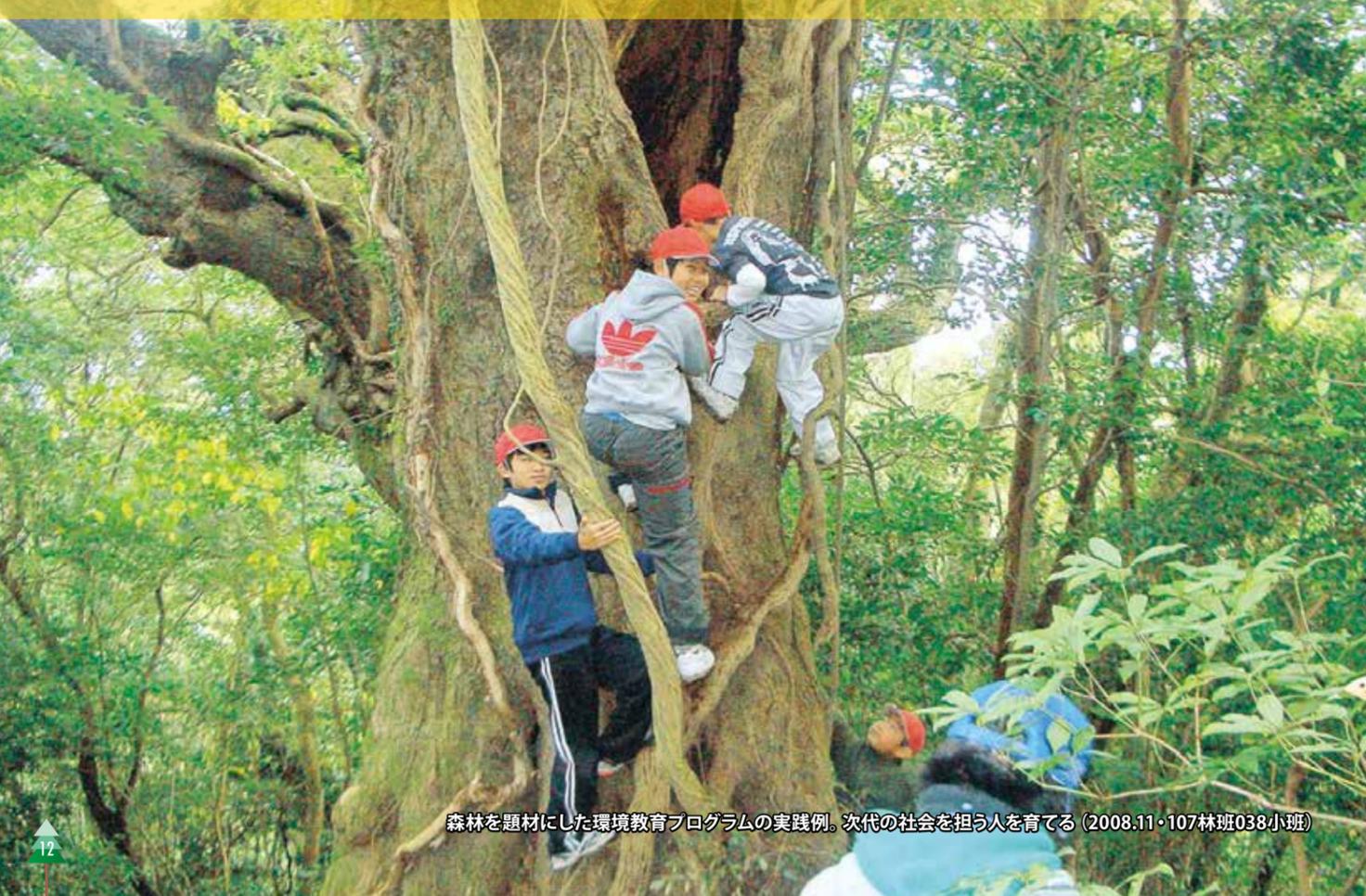
森林の最も基礎的なデータとなる、樹木の密度や生長量を把握するための定期調査。





持続的な資源活用のために、林業の責任とこれからの技術者育成について考えます
(2020.08・117林班027小班に隣接する国有林から垂水市内を望む)

地域の課題に取り組む



森林を題材にした環境教育プログラムの実践例。次代の社会を担う人を育てる (2008.11・107林班038小班)



林業人材育成 (次世代林業マイスター養成講座) since2007

日本の林業には、さまざまな課題があります。演習林ではこれに対応するため、2007年から林業技術者を対象にした研修会を行っています。この講座の目的は、安全と環境に配慮しながらも、木材生産・再造林のコスト縮減や、ICT活用等による高度な森林の管理・経営を、持続的に実現できる次世代の技術者を育成することです。合宿形式の研修会には全国から200名以上の参加者があり、大学が行うものとしては先駆的な存在として知られています。



林業カードを使ったグループ演習
(2019.10・講義室)



森林環境教育 since1999

自然体験や自然と共生した暮らしの体験が乏しい現代人にとって、森林は体験を通じた学びの場として欠かせない存在です。高隈演習林では、広大なフィールドと豊かな森林・自然資源を活用して、1999年より地域の子もたちや市民を対象とした森林環境教育プログラムを実施しています。

2006年には演習林の地元大野地区の小中学校が閉校になったのを契機に、垂水市と大学が連携して演習林で実施してきた森林環境教育プログラム等を専門に提供する「大野ESD自然学校」ができました。演習林の地域貢献事業として自然学校の活動に協働するとともに、学生が授業やボランティアとして自然学校の活動に参加しています。さらに学生は大野地区との交流を深め、農作業のお手伝いや集落行事への参加、伝統芸能「棒踊り」の継承など、農山村の暮らしと文化を学ぶことを通じて地域の活性化にも大いに役立っています。



(2017.09)



(旧大野小中学校)



大野原いきいき祭り
赤内いち17小のちのちのちのち

森林環境教育活動の実例

垂水小学校総合学習

演習林名物「沢登り」を始め、川・森・林業をテーマに5年生が体験から学ぶプログラムは20年以上続いています。垂水市内のほとんどの学校が演習林で体験学習をしています。



森・ひと・体験

学生がキャンプ等のさまざまな自然体験活動を通じて、自然と人、人と人の関わりをじっくりと学ぶ共通教育科目。「人生が変わる授業」「世界一楽しい授業」と呼ばれています。



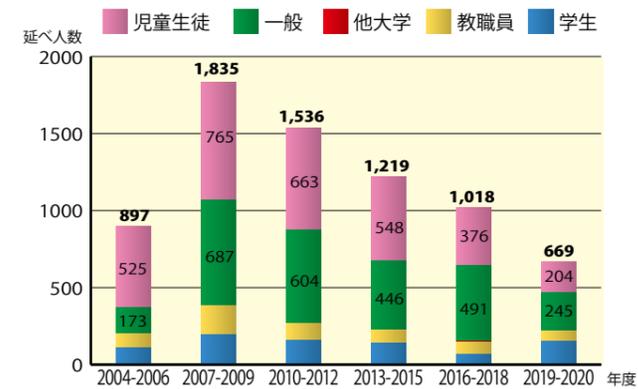
(2019.09・キャンプ場)

棒踊り

棒踊りは薩摩藩時代にできた鹿兒島の伝統芸能。大野地区の棒踊りを2007年から鹿大生が踊り、集落の文化継承の一翼を担っています。勇壮な踊りは大学祭でも披露しています。



図-9 利用者数(社会貢献) (3年間平均)



未来に届ける仕事 林業

林況

高隈演習林は、天然林1,881ha (61%)と、人工林1,105ha (36%)、その他82ha (3%)で構成されています。人工林は、スギ(923ha。森林の30%)と、ヒノキ(136ha。同4%)が多く、蓄積量としては、スギが52万m³、ヒノキが6万m³あります。スギ・ヒノキの林齢構成は、51-60年生(11-12齢級)にピークがあり、51年生以上の面積が79%あります。逆に、45年生(9齢級)以下の比較的若いスギ・ヒノキ林は11%しかありません。また、研究林としては、人工林の樹種のバリエーションが少ないことなども、今後の課題のひとつです。(出典は森林簿2019.04版)

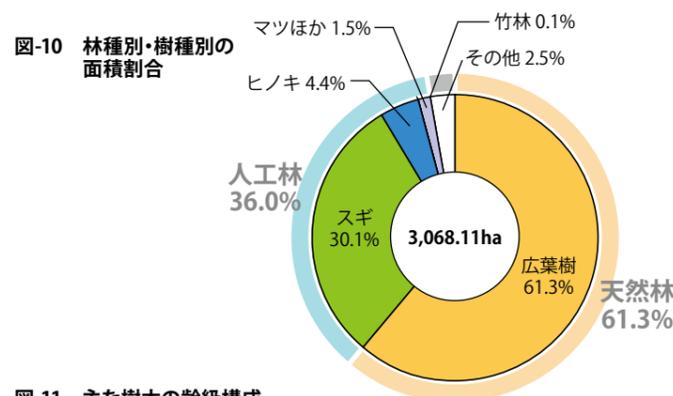
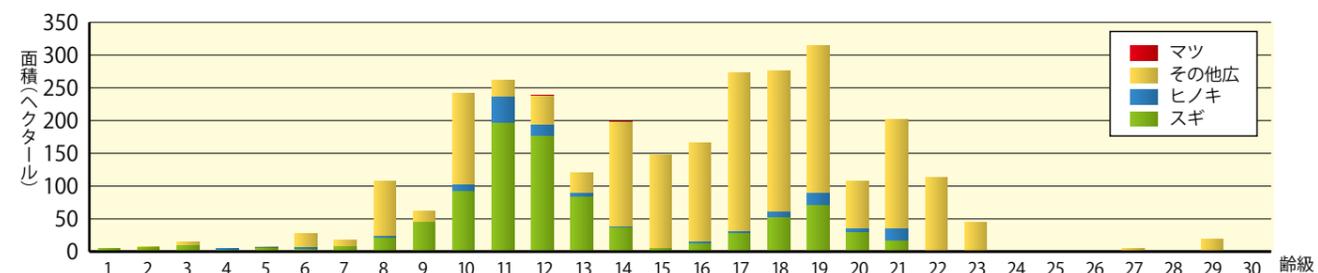


表-9 樹種別の面積・蓄積量

林種	面積(ha)	樹種	面積(ha)	蓄積(m ³)
天然林	1881.22	その他広	1,881.22	268,955
人工林	1104.71	スギ	922.89	519,860
		ヒノキ	136.18	56,661
		マツ	1.84	570
		クス	0.23	35
		クヌギ	0.13	1
		その他広	41.86	4,804
		その他針	1.58	476
竹林	4.43	マダケ	0.23	0
		メダケ	2.88	43
		モウソウチク	1.32	0
その他	77.75	更新困難崩壊地	74.98	0
		未立木地	2.77	0
森林面積	3068.11	—	3,068.11	851,406
		建物・苗畑	1.35	—
		高隈演習林の総面積	3,069.46	—

図-11 主な樹木の齢級構成



施業実績

1955年前後から木材生産が盛んに行われました(年間50ha程度。図12)。それに続く20年間は、皆伐地に植林した人工林の保育作業に追われました(下刈を年間400ha。図13)。そして近年、ようやく人工林の多くが資源充実期に至り、生産量・生産額ともに増加傾向にあります(生産量1,800m³。生産額1,500万円。2016-2020年の平均値。図14)。

なお、作業の実施形態としては、職員実行による木材生産と、以前から行っていた保育作業の委託に加えて、委託間伐や立木処分による木材生産も行うようになってきています。

図-12 木材生産面積(1955-2019)

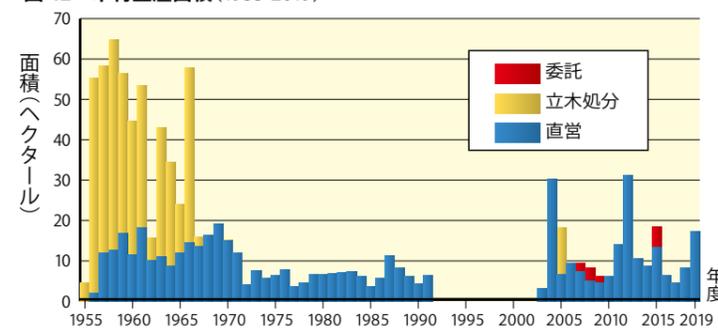


図-13 保育面積(1955-2019)

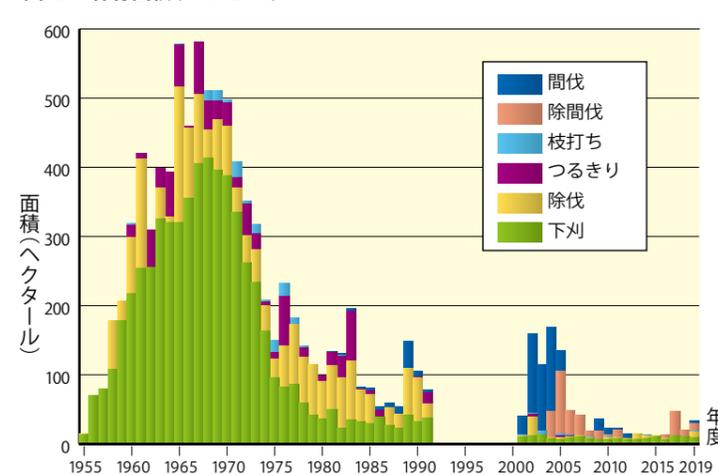


図-14 木材生産量(棒グラフ)と生産金額(折れ線)の推移(2004-2020)



(2012.12・102林班010小班)

表-10 演習林一覧

番号	名称	詳細	所在地	面積	農学部からのアクセス
①	高隈演習林 および事務所	大隅半島の垂水市にある一団地の森林。南九州の自然植生である照葉樹二次林と、開山直後から植林されたヤクスギやケヤキなどの人工林を有する。火山噴出物が堆積した地質や、豊富な湧水などが特徴。	鹿児島県 垂水市 海潟3237	森林: 3,068.11ha 建物等: 1.35ha	垂水フェリーを利用して約90分で到着。垂水市内からは車で20分。鹿児島空港からは車で80分。公共交通機関は不便。
②	桜島熔岩実験場	桜島の南西部、烏島展望台の周辺に位置する。大正3年にできた溶岩台地で、森林化していく植生遷移を観察することができます。	鹿児島市 桜島横山	37.27ha	桜島フェリーを利用。桜島港から徒歩10分
③	唐湊林園	郡元キャンパスの近く、住宅街にある唐湊果樹園に隣接している試験林です。森のようちえんと共同研究を行っています。	鹿児島市 唐湊3丁目	0.99ha	農学部から2.5km、徒歩15分
④	(実験苗畑)	?年~1959年 学内苗畑 1959年~2016年 実験苗畑 2017年~ 農学部が直接管理	鹿児島市 郡元1-21-24	0.33ha	郡元キャンパスの北端にあります
⑤	(垂水実験地)	1958年~1991年 垂水貯木場を設置 1991年~1999年 育苗実験地 1999年~2013年 垂水実験地(2013年 売却済み)	垂水市本城 港平3975-1	0.46ha	垂水フェリーを利用して約60分。垂水港から車で5分。
⑥	(佐多演習林)	1909年~2004年 佐多農林実習場として設置、のちに改称 2005年~ 農学部が直接管理 九州本土最南端、佐多岬の一角を占める。当初はクロマツと常緑樹の点在する原野。のちに亜熱帯有用樹種の試験栽培を経て、亜熱帯樹木が混生する林相に。霧島錦江湾国立公園の第2種特別地域です。	南大隅町 佐多馬籠349	229.23ha	垂水フェリーを利用して約160分。



利用案内

演習林は教育・研究のために管理している森林です。見学希望の方は、窓口までご一報ください。車両の通行には制限がありますが、徒歩で利用できる見学コースがあります。なお、一般の方の宿泊利用は受け付けていません。教育・研究目的の場合には、事前の申し込み・届け出が必要になります。詳しくは下記演習林事務所にお問い合わせください。



鹿児島大学 農学部附属
高隈演習林事務所



〒891-2101 鹿児島県垂水市海潟3237
TEL 0994-32-6329 FAX 0994-32-7665
月~金曜日(祝日除く) 8:30~17:15
<https://ace1.agri.kagoshima-u.ac.jp/~takakuma/>
E-mail tf-somu@agri.kagoshima-u.ac.jp

2011年9月 初版 1,000部 2015年2月 2版 4,000部
2012年4月 1,500部 2022年3月 3版 2,000部
2014年7月 500部

間伐材マーク



この冊子は間伐材を使った紙を使用しています
(間伐材クレジットパルプ10%以上、古紙30%以上)